

長崎市居宅介護支援事業者連絡協議会報  
ケアマネちゃんぽん 2004年1月号掲載より

『長崎在宅 Dr.ネット』のご紹介

長崎在宅 Dr.ネット広報部長 詫摩 和彦(医療法人たくま医院)

この度、貴誌にて私共の『長崎在宅 Dr.ネット(ながさきざいたくドクターネット)』の紹介の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。『長崎在宅 Dr.ネット』(代表:藤井外科医院 藤井卓先生)というのは、平成15年3月に発足した新しい会で、会員数は現在30数名です。この会は、複数の医師が連携することによって、在宅の患者さんが安心して療養できるような環境を作ることを目的に発足しました。

背景としては、昨今の医療保険の改定により病院での長期入院が困難になってきたことや介護保険の普及等にて在宅医療のニーズが増してきたことがあります。ただ一開業医にとっては、重症の患者さんを数多く診ることは、心身ともに大きなストレスでもあり、実際に積極的に在宅診療を実施している開業医は少ないのが現状です。そこで、まず在宅医療に関心のある医師を集めて、診診連携・病診連携の形を整え、その中でグループ診療を行うことで、患者さんや病院側に対しては在宅医療の受け皿となり、開業医にとっては個人の負担の軽減を図れるシステムを構築しようと考えたわけです。

具体的には、病院側(主治医や病診連携室)から、当会の事務局(白髭内科医院)に在宅診療希望の患者さん発生の連絡を受けるところから始まります。そして事務局から、当会のメーリングリスト宛てに主治医を募る eメールが送信され、該当地区の会員が手を上げるという形をとります。その際に、主治医とともに副主治医(主治医が対応できない場合の補佐役)も決定します。その後、主治医と副主治医が相談しながら在宅診療を開始します。また、当会には協力医として皮膚科・眼科・精神科・脳外科・麻酔科・整形外科・形成外科・泌尿器科・婦人科などの専門性の高い領域の開業医の先生方や大学病院を始めとする病院の先生方にも相談役として入会していただいております。もちろん、各訪問看護ステーションとも密な連携を図っております。

このようなオープンなシステムで在宅診療を行っていくというのが当会の方式ですが在宅の場合、医療だけでは完結できません。介護保険サービスがあって初めて患者さんが安心できる在宅療養ができるものだと思っております。そのためには、当初(退院前)からケアマネージャーさんに加わってもらって、患者さん側と医療機関側の橋渡し(連絡や問題提起)をして頂き、その上でオーダーメイドなケアプランを立てて頂く必要があると切に感じています。医療と介護は横並びです。先日開催した症例検討会でも、あるケアマネさんから厳しい忠告や提案も受けました。今後お互い叱咤激励しながら、在宅の患者さんやその家族の方々のためにがんばっていかねばと思っています。

まだまだ発展途上の会ではありますが、御協力の程よろしく申し上げます。